# 健聴者と交流 日常描く

## 湖西でショップ経営 ろう者の太田さん主人公映画

## 監督の今村さん「壁が取り払われた」

### 市民会館で10月1日上映

湖西市でサーフショップと雑貨店を経営するろう者の太田辰郎さん(四九)を主人公にしたドキュメンタリー映画ができた。客や仲間と自然に接する日常を記録し、ろう者と健聴者とのコミュニケーションの在り方を伝えている。

（南拡大朗）

映像作家の今村彩子さん(三二)＝名古屋市緑区＝が監督を務めた。今村さんもろう者。二年前に友人の紹介で太田さんの存在を知り、筆談や身ぶりで気さくに受けてカメラを手に取った。

タイトルは「珈琲とエンピツ」。太田さんが来店客に自慢のハワイアンコーヒーを入れて招き、自分の耳が聞こえないことを伝えてから鉛筆を手に会話を始める、という習慣から名付けた。

映画では、浜名湖や遠州灘海岸といった自然も登場し、太田さんが声や笑顔、身ぶりを交えて客やサーファーたちと交流する姿が描かれる。自身も出演する今村さんは「太田さんと接するうちに自分の中に健聴者への壁があることに気づき、だんだんと取り払われた」と話す。

太田さんは「ろう者と健聴者のコミュニケーションの方法が分からないという人もいるが、映画を見れば『なるほど』と思ってもらえる」と話している。

十月一日午後二時から、湖西市民会館で初上映される。前売りは千円（当日千三百円）、小学生五百円。問い合わせは、サーフハウスオオタ＝ファクス〇五三（五七六）四二七〇＝へ。東京や愛知県での上映も検討中という。

映画をPRする太田辰郎さん(左)と今村彩子さん＝湖西市役所で